



H.3.12.1

NO.54

一発行一

〒869-12

熊本県菊池郡

大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

TEL096

293-8100

自閉症セミナー

理事長 田中 稔

今年も十月六日に法人主催の自閉症セミナーを催しました。施設を開園し3年が経過したのを期に昨年より始め、今年で2回目です。開園当初より自閉症の中心施設として療育実践を積み重ね、より多くの方々との連携による開かれた施設を目指して来しました。

『より実践的に』『より具体的に』『より各論的に』という趣旨で自閉症という障害を知り合い、話し合う場にしたいたいと思って始めたものです。

昨年は自閉症児者療育実践の第一人者の一人である石井 聖先生(自閉を活かす 学苑社等)に講演頂きました。熊本女子大の山本先生の御努力により大きな教室を

使わせて頂きましたが、教室に入りきれない程の盛況でした。

石井先生の持論である自閉症への考え方、言葉の意義、意識、パターン化への対応等について朝から夕方まで精力的にお話し頂きました。これだけの時間でもまだ「話し足りない」「聞き足りない」という気持ちの方が方に残りました。今回、再度石井先生にお話し、

お忙しい中、快くお引き受け頂きより深めた話を聞く事になりました。驚いた事に、先生が日頃実践されている療育状況を多くの方に見て欲しいと低学年の子供達20名とスタッフ8名を飛行機で連れて来られました。これだけの自閉症児を飛行機に乗せるといふ自信は素晴らしいと思います。今回の会場は実演が見える様に青年会館ホ

ールでした。当日の朝ホールの廊下で出番を控えて正座で待っている子供達と会い、「よく来てくれました、ありがとう」の挨拶で始まりました。

三気の里の園生もぶっつけ本番で参加しました。2時間休みなしに集団の動きの流れの中でリズムの強弱、早い遅いの変化を入れて一人一人の子供の意識を保ち続けさせるやり方の様に思いました。それにしてもスタッフの方々の動きの素晴らしさ、エネルギーの凄さに圧倒されました。

自閉症という障害は一般の発達障害に比べて少数派です。専門家も少ないし、従って自称専門家がまかり通る事になります。セミナーで異なる物や考え方に触れる事により、自分達のやっている事の良い点、足らない点等に気付き今後の療育に活かしていただければ主催者として嬉しく思います。



療育シリーズ

常同行動2

園長 土井尚典

問題行動の一つに他の人の迷惑になるというのがある。例えば就寝時間に奇声を発すると周りの人はとても眠れない。小さい声でも発し続けられると気になって眠れるものでない。

普賢岳の噴火による集団避難で体育館や公民館等に避難を余儀なくされた自閉症児者をもつ家族は一方ならぬ御苦労があったようです。皆が寝る時間に静かにできない事が大変だったようです。まさに針の筵に座らされたようなものです。「静かにしなさい」と言っ

て静かになれば苦労はありません。この「静かにできない行動」が常同行動である場合があります。

2班の一泊旅行で手たたき、奇声や歌の旋律の一部を繰り返し歌う等の行動がある園生達と同室になった。十時の就寝時間になっても環境が変わって眠れないのも手伝って手たたき、唸り声、同じ旋律の繰り返し等の大コーラス会となった。Aくんは手を上にかざしながら声を出す。Bくんは片手で空中で円を描いてから手たたきの後右手で口を覆い左手で目の上を覆って同じ旋律を唸る感じ。Cくんは指先の爪で歯をはじき、手たたきや声を出す。一人づつ注意しても3人がお互いに刺激しあい大コーラス会になってしまう。他の園生もとても眠れたものでない。

3人ともそれぞれにパターンをもち、その行動を容認していると声出しの行動にはいつて常同行動となっていた。そこでほっとけば声だし(奇声)行動の常同化にながって行く引金になっている最初の行動をブロックすることにした。まずAくんからはじめ、既に常同化した声だしを完全に止めました。次に引金になる最初の行動を手で制止(他動)し安定して来たら声かけで制止しました。この段階でBくんに取り掛かった。他動で制止し、Aくんに動きがある

とAくんに声かけをした。Bくんが声かけでブロックできるようになる

になるとCくんに移った。Cくんを指導しながらAくんBくんに声かけした。10分程のプロセスであるが、その後また出るかもしれない

と思う1時間近くは緊張を解けなかった。日常場面でも常同行動をさせないという姿勢があればこんな苦労はせずにぐっすり眠れる

のだが、私の弱さなのか甘いのか誰にも迷惑がからぬ場面では「まーいいか」と思ってしまうのである。そのつけが大事な場面

で回ってきているのは確かである。やはり常同行動はさせないという姿勢が大切だと思います。



初めての運動会

平川聖子

「これから、うんどうかいを始めます。れい！」浩ちゃんのしつかりとしたあいさつの言葉が、広い体育館に響き渡り、整列したみんなも胸を張りキリリとした表情。10月27日(日)、大津町の町民センターで、お父さん、お母さん、そしてたくさんのボランティアの皆さんに見守られる中、初めての「三気の里の運動会」が始まりました。松島さんが選手宣誓をし、希久ちゃんをお手本にして準備体操をした後、いよいよ競技開始です。まずは、全員参加の徒競走。「よいいドン」と走りだしたはいものの、小さなカーブを回り切れずに大混戦。軍手、長靴、麦わら帽を着ながらゴールするお着替え走では：アレアレあわてているのかな、いつもやってるはずなのに：じれったくなってお父さんが手伝ってくださいました。親子競技の「汽車ぼっぼ」。今まで応援

席に座ってむずむずしていらっしやったお父さん、お母さんが、「いやあ」と言いながらも腕まくり。ロープのわっかに入って一緒に走る？いえいえ、お父さん、お母さんが引っ張って走る走る。各班の対抗戦とあってみんな必死でした。その他、キャタピラ、むかで競争、雑巾掛け競争、班別リレーと盛りだくさんの競技で汗を流し、待ちに待ったお昼ご飯。またまたこれも三気の里の行事では初体験の、「お母さんの手作り弁当」。誰かな、重箱を4段もペロリとたいらげたのは？午後からの綱引きや大玉転がしやダンス「サンバおてもやん」では、重たくなったおなかを抱えて：、体育館の床も大揺れでした。閉会式では、「みんなとてもよく頑張ったね」とお誉めの言葉を頂き、「やるるときやります」の上田さんが、「運動会を終わります」と立派に占めてくれました。

忙しい中、応援に駆け付けて下

さったご家族の皆さん、運動会の進行に協力して下さいました。また一緒に楽しみました。また一緒に楽しみましょう。

運動会



金森豊子

第一回三気の里の運動会が、盛大に行われました。2、3日前から弁当は何にしようと、仕事はうわの空……。当日は曇り空、雨もパラパラ……。でもお弁当の用意をして会場に直行です。競技場につくと子供達のうれしそうな顔、顔。会場は熱気に溢れていました。開会の挨拶、競技の説明、ラジオ体操と職員の方々の指示通り競技が行われ、会場はみんな一つになっ

て笑いと涙の渦です。自分の得意な競技になると目を輝かし、嬉しそうにピンピン跳ねています。昼

3班 鹿兒島へ行く

今回の宿泊地は、指宿の簡易保険保養センターを利用させていただきました。築2年というまだ新しい建物で、又窓からの眺めがすばらしく、眼前には海が広がり、遠く今も噴煙をあげ続けている桜島が蜃気楼のように浮かんで見えるのです。特に、その眺めを見ながらの5Fでの入浴（温泉）は格別で、特筆すべきものがあります！3班の皆は、はしゃぎにはしゃぎ、憲ちゃんは保養センターの1F～5Fまでを大塚さんと追い駆けっこをした（つもり）ようです。希久ちゃん・てっちゃん・まこちゃん・やっちゃんと田之上さんはおはやしにあわせて舞台に躍り出て、（これが、近くにいた団体さんに、保護者の方にうけ、喝采を浴びました。）かずくん・まーくん・憲ちゃん・順ちゃん・稔くん真一郎君は夜中になかなか眠れず、やっちゃん・希久ちゃんは行動を共にしたそれぞれのお姉さん（大塚さん・高木さん）にべったりで、武ちゃん・新ちゃんは、次の日の平川動物園で動物に乗り物にと、お母さんと一緒にととてもハッスルして過ごしていました。最後になりましたが、保養センターの皆様、平川動物園の皆様、本当にお世話になりました。皆、無事に三気の里に着きましたよ。

坂本

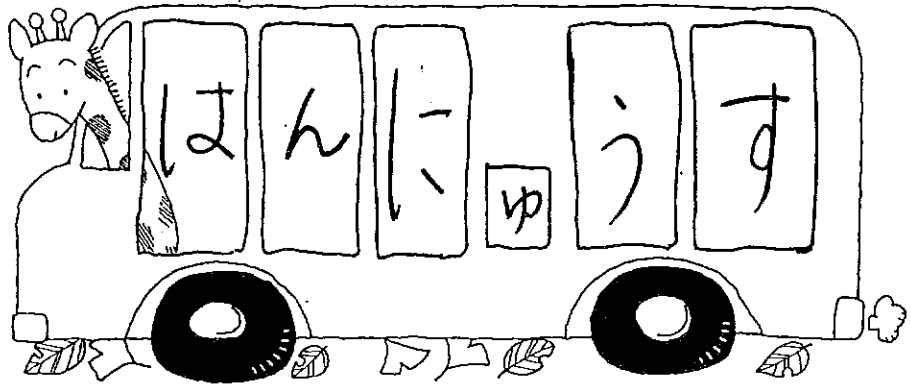
4班 復活

9月27日、台風19号来襲の後、4班みんなの思いを込めた『たんぼぼ市場』は、見事に飛ばされて元の廃材へと化していました。（あれは廃材で建ててあったんですよ！）

唯一残された土台を呆然と眺めている私に「もう、止められるんですか？」「白菜や大根を楽しみにしているんですよ！」と、高齢のご婦人が二人声を掛けて下さいました。「いえ、又建てますよ！」と約束して一月半がたち、この度『たんぼぼ市場』がやっと再建されました。

元々「みんなが頑張った野菜をムダにしないようにしよう！」「もっと多くの人に食べてもらおう！」と作った『たんぼぼ市場』ですが、少しづつながらファンとも言えるべき方々が増えて来ている様です。まだまだこれからいくらでも大風は吹くでしょうし、『たんぼぼ市場』も飛ばされるかもしれません。しかし、頑張り続ける4班のみんながいて、虫食いだらけの野菜でも楽しみにして下さる方々がいらっしゃる限り『たんぼぼ市場』は必ず復活します。スーパーで売られている様な、綺麗な野菜は出荷出来ません。でも、みんなが思いと感謝を込めて頑張り続ける限り、『たんぼぼ市場』は大空へ種を飛ばし続けます。

東



1 班 みかん狩りへ行こう

11月に入ってからくぼたさんのみかん山へ1班もみかん狩りに行かせて頂いています。要領も良くないのですが、元々のんびりの1班、儲けようという商売気がなく周りからのアドバイスにもマイペース。ついこの間、1班職員が集まり話しました。商売よりも人と人とのつながりを大切にしたい。T氏とIさんの強い意見。1班のみかんは、西原村の無農薬野菜販売店“ジェット”をされている内田さんの好意により、そこで販売して頂いています。普通とられる手数料もとられずにV.O.でやって下さっています。本当に感謝です。いつまでみかんを出せるか分かりませんが、みかんがなくなってもつながりは大切にしたいものです。又、みかん狩りをさせて下さっているくぼたさんの好意にも深く感謝したいと思います。人が育てたみかんの収穫だけをするのは申し訳ない様です。みかんを採るだけでも沢山となると大変なものです。これを育てて出荷される農家の方の苦勞が少しは分かったような気がしました。 武藤

2 班 お～い うちでのこづち

“商売”…何と言ってもこの言葉が一番似合う2班。なぜかって？金儲けだけを生きがいのようにし、いつも、絶えず下を見て、耳は“ダンボ”にし、声はこだまのように「何かいい物ないかな～。」「何かいい話がないかな～。」なんておしゃべりしながら通っているのです。

あったあった、いい話が…！みかん山がつぶされる。そんな話が聞こえてきました。次の日にはすべての仕事を取りやめ、矢のごとくみかん山へととんでいたのです。やっぱり2班と笑われ続けています。それでも負けず、毎週みかん狩りへ。今、燃えに燃えています。みんなの情熱が伝わったかのように、あま～くおいしいみかんが、とれるはとれるは！2班特別みかんをあなたも一度たべてみませんか？なにかいいことあるかもしれませんよ。 清田

(3ページから)

食はみんな家庭の味に舌つづみを打っているのか、静かな雰囲気です。フィナーレは、みんな輪になっておてもやん総踊りで締めくくります。

ここまで指導された職員の方々に頭が下がる思いです。私達も久し振りに童心に返り、一日を過ごす事が出来ました。園長先生及び職員の皆様、本当にお疲れ様でした。

作品展



坂井省英

今年も愛護作品展示会が、10月19日、21日の3日間、熊本城二の丸公園にて、県下精薄施設が参加し盛大に開催されました。

例年、三気の里でも、拙い作品を出品展示し、なかば強引に買って頂きました。今年は、それに加えて、十枚のパネルに、思いでの写真集を展示いたしました。

作品展を皆で楽しもうと、園生、職員有志でステージに立ちました。

練習もほとんどしなかった由布子さん、本番では、マイクを握り離さず、歌い始め、それに合わせようと職員も四苦八苦、由布子さんの度胸に驚くやら吹き出すやら、楽しいステージでした。

3日間は好天に恵まれ、沢山のお客さんが訪れて頂き、ありがとうございました。

デンタル通信

森 隆子

今回はブラッシングの様子をお伝えします。

私の顔を見ては、必ずコップと歯ブラシを持って来る浩ちゃん、指で歯をカチカチとたたいて寄って来る憲ちゃん、自分で染出しから歯磨きを上手にするゆうこちゃん、あんなに接触を嫌っていた建ちゃんも、出血が減り歯肉炎も驚く程奇麗になりました。一人また一人とたんぼぼ室が増え賑やかに

なります。指導員の方の努力が毎回の変化として現れています。嘔吐の激しい松島さんの治療は、「オエッ、オエッ」涙と笑い顔はくちやくちや。入れ歯を入れるといい男前。治療をして来た園に帰って口の中を見せる憲ちゃん、彼らが来る初日は私の方が彼が来るかの様にドキドキ。嬉しい事に院長からも気持ち良く診て頂いています。私からもありがとうございます。これからもよろしくお願ひ致します。と一言。一人でも多くの園生さんが、一般治療を受けられる為にもブラッシング指導を続けたいと思っています。ポランティアの一員としていろんな人が園に来て、お金で買えない「何か」を得て喜びを感じられる事を希望します。



ぼらんていあ通信

前略

皆様、その後お変わりありませんでしょうか、三気の里の運動会、自然の里での奉仕活動、共に体力を大変使われたものだったことに違いありません。大変お世話になりました。体力の続く限り(根性のある人は)また三気の里に遊びに来てくださいね。お待ちしております。

草々

ボランティアありがとう

《運動会》反頭 由妃 宮地 里花
 平田 由美 池部 裕一 津原 美保
 村上 知恵子 斎藤 知典 田中 亮
 小野 光徳 野中 さつき 中島 博
 岩永 洋一 池永 順一 前原 博美
 平山 三博 森川 明子 宇野 優子
 長友 重夫 松永 さやか 岩永 靖
 横田 真由美 甲斐 芳恵 森 隆子
 松永 由紀恵

《自然の里での奉仕作業》

野中 さつき 津原 美保 森 隆子
 堤耕一郎 松永 さやか
 《散髪》源三 増美 坂本 シマ子

《園内清掃》遠山 一恵 藤本 薬局

敬称略

ボランティア体験

堤 耕一郎

施設は、どこのどんな施設でも職員にとって楽の出来る施設は無いです。しかし、重度の自閉症(児)者の多い、この『三気の里』は私がこれまで見聞してきた中でも、そのハードさにおいてトップクラスである。その主流が20才前後の若い女性達であり、もちろん園長先生はじめ、事務長他『三気の里』のスタッフの指導宜しきの結果でもあるが、彼女達の仕事への情熱、ひたむきさに私は感心を通り越して感動したものである。常に園生の態度に気を配り、一人一人の名前を呼び掛け、「ガンバレ、ガンバレ」と、声援し励ましながら先頭に立って畑仕事に木工作業に取り組まれる。この地味で忍耐と努力のいる仕事に彼女達が打ち込めるのは、彼女達の園生に対する深い愛情とノーマライゼーションの思想をしっかりと身につけていら

れるからであろう。

この体験学習を通じて、このような若い女性達がいる事に安心したものである。

令良堂営業中

最近食堂でよく見る光景

『全部食べなっせ』

一杯残ったお皿を向こうへやろうとする。

『食べてしまいなっせ』

口からはきだす。

『はい、かんで。出さんよ』

歯に挟んだまま必死の抵抗。

偏食の子への指導の様子を見ていると本当に根気のいる指導だと思えます。嫌いな物を食べるのは辛い事だから。でも偏った食事は体にはとても良く無い事。

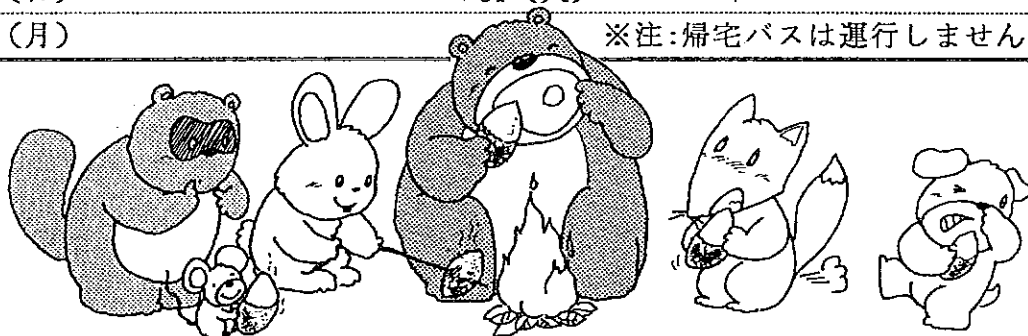
嫌いな物を一人で食べられる様になるまでにはまだまだ時間がかかります。それまではきつと食堂のどこかで見られる光景。Kちゃんがんばれ！。お肉も野菜もおいしいんだよ。

高木

12月の行事予定

1 (日)	17 (火)
2 (月)	18 (水)
3 (火)	19 (木) 4班レク
4 (水)	20 (金) 大掃除
5 (木) 誕生会 3班レク	21 (土) シーツ交換
6 (金)	22 (日)
7 (土) シーツ交換	23 (月) 回
8 (日)	24 (火) クリスマス会
9 (月)	25 (水) 帰宅週間
10 (火)	26 (木)
11 (水)	27 (金)
12 (木) 1・2班レク	28 (土) 帰宅日
13 (金)	29 (日) 冬季帰宅
14 (土) 餅つき 父兄会 帰宅日	30 (月)
15 (日)	31 (火)
16 (月)	

※注:帰宅バスは運行しません



後援会入会

ありがとうございます

脇島義郎

十一月二十九日付け

※敬称略

◎ 後援会云々日より

この度、後援会名簿の整理を致しました。

三気の里が昭和六十二年に開園して以来今日までたくさんの皆様にご支援いただきました。

いままでも名簿の整理がなかなかできず、「たんぼぼ」が複数届いたり、氏名や住所の間違えや変更などの手続きが遅れたり・・・と、ご迷惑をおかけしました。この場を借りましてお詫び申し上げます。間違えや変更など何かお気付きの点がありましたら、お早めにご連絡下さい。

編集後記

師走：忙しくなります。皆様もお体を大切に。「クシユン！」東